

岐阜米穀(株) メールマガジン

今回のテーマは「秋の肥料が大幅値上げに 高度化成肥料 55%高騰」

JA 全農は来年 6～10 月に供給する肥料価格を発表しました。前回に較べて単肥では尿素や塩化カリを中心に 25～94%上げ、窒素・リン酸・カリを各 15%含む基準銘柄の高度化成肥料は 55%上げる。

全農は「過去に経験したことのない、大きな値上げ」(肥料課)とする。単肥の尿素、硫酸、塩化カリ、基準銘柄の高度化成は過去最高値になるという。

単肥では、輸入尿素が 94%、国産尿素が 73%と大きく上げた。主要輸出国のロシアへの経済制裁や、中国の国内優先政策で輸出規制をかけていて入手しづらい状況が続いていることが要因なのです。同じ窒素質の硫酸は 45%値上げ。窒素質肥料の原料となるアンモニアの高騰が背景にある。

アンモニアは石炭火力発電所で CO2 対策として大量に一緒に燃やされていることも重要なのです。

リン酸質の過石と重焼リンは、原料となるリン鉱石の価格上昇で各 25%上げ。

カリ質では、塩化カリが 80%と大幅に上げた。

世界の輸出量の 4 割を占めるロシアとベラルーシの供給停滞が影響した。一層の安定供給に向けて、銘柄集約と精度の高い農家予約の積み上げに取り組み、メーカーと効率的な供給体制を構築していく考えだ。

国内には、実証圃を設けて、土壌診断に基づく適正施肥で、国効率の良い使用方法の徹底や、国内資源である堆肥の活用を普及するには廃棄されているおからや鶏糞などの適切な活用が必要になってきます。

原料価格高騰により肥料供給業者も相次ぎ値上げする動きが出ている中で、肥料高騰を巡り、政府は以前から計画している有機農業の推進などで影響の緩和を検討しているのです。岐阜米穀は麦や米の糠や選別カスなどを使用しての堆肥化にも取り組み始めています。